

## 発表要旨 『ロシア語の語頭子音連続における調音の実態調査』

語頭にどのような子音連続を許容するかは、各言語の音韻によって異なる。本発表で扱う歯茎破裂音+側面接近音の子音連続([t1, d1])は、類型論的にも稀な組み合わせであり、ヘブライ語やロシア語など限られた言語にのみ存在する。その一方で、歯茎以外の調音点を有する破裂音と側面接近音との子音連続([p1, b1, k1, g1])は、英語やフランス語など幅広い言語に存在し、これらの言語の母語話者は、[t1, d1]を[k1, g1]に知覚錯誤することが示されてきた(Hallé et al., 1998 他)。と同時に、僅かな例外を除いて子音連続という構造そのものを許容しない日本語を母語とする話者も、[t1, d1]を正しく知覚できず、[p1, b1]に錯誤することが示されている(Yokoe, 2019 他)。これらの知覚錯誤現象と、子音連続の調音実態とを包括的に議論する可能性を探るため、本発表ではロシア語の当該子音連続をとりあげ、磁気センサ式調音運動計測装置(WAVE)および超音波装置を用いた撮像の実際について紹介する。

※本研究は国立国語研究所との共同利用型共同研究(B)プロジェクトの一環です。また、科学研究費(若手研究)19K13166 による助成を受けています。